式辞（令和四年度卒業証書授与式）

例年になく雪深く、厳しかった今年の冬も、八甲田、八幡岳の峰々に早春の気配満ち、この舘野ケ原の大地にも、陽の光が力強く降りそそぐ今日の佳き日。

七戸町町長、小又 勉（こまたつとむ） 様をはじめ、多数のご来賓と保護者の皆様のご臨席を賜り、第七十三回青森県立七戸高等学校卒業証書授与式を挙行できますこと、厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与した九十七名の生徒の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆様のお名前は、九十七年の歴史と伝統をもつ本校の卒業証書台帳に確かに刻まれました。

皆様が本校に入学したのは、東京オリンピック開催を予定していた二千二十年の四月七日。その約二週間前に、オリンピック開催の延期を決定するという出来事があったばかりの時のことでした。

同時に学校も経験したことのない対応を求められました。

文部科学省が全国の学校に対して一斉臨時休業を通知したのが２月末。その後、卒業式、高校入学者選抜学力検査、入学式など全ての行事の見直しが求められました。校内外における感染症対策、休業により実施されなかった授業の補填。インターハイをはじめとする各種大会の中止。学校行事のほとんどが縮小または中止に追い込まれたのでした。

学校の外も大変な混乱に巻き込まれたのは皆さんも覚えていることと思います。今、ウクライナの戦争においても同様のことが起きています。

人間は、偏見や先入観をもって生まれてきます。だから、人間のその弱さを自覚し、科学や理性、合理的精神なるものを学び、ゆがんだフィルターを常に交換し続ける必要があります。

皆さんにこれまで何度も話してきたように、正しく学び続ける必要があるのです。

七戸高校では、自己肯定力・実行する力・考え抜く力・協働する力・郷土を愛する力の五つを卒業までに身に付けてほしい力とし、あらかじめ定めたルーブリック表により、生徒自身が、学校教育活動のあらゆる場面で自己評価・定性評価することとしてきました。

生徒自身による定性評価としたのは、人として大切な能力は、数字で表したり、比べたりすることができないからです。

私は、今年度の入学式で、ある知的障碍者の詩を紹介しました。

私は一本のローソクです
もえつきてしまうまでに
なにか一ついいことがしたい
人の心に

よろこびの灯をともしてから死にたい

学力には「目に見える学力」と、「目に見えない学力」があります。そのどちらも大切です。しかし、どうしても人は人を数字で比べようとします。目に見える形で序列をつけ、優劣をつけようとする傾向があります。

この詩には、人として大切な見えない学力の高さを見ることができます。

七戸高校は、能力や進路別にクラスを分けることはしません。就職から進学まで実に多様な進路希望、多様な学力、多様な個性を持った生徒が一つのクラスで過ごしてきました。そして、個々の生徒が、自分の将来に向けて、自分で科目を選択し、学んできました。高校三年生の進路決定は、七月から始まり卒業後の三月末まで、それぞれにその時期が異なります。しかし、皆さんはクラスメイトのそれぞれの進路を尊重し、クラスが一体となって行事等に取り組んできました。

それが、総合学科なのです。

皆さんがこれから飛び込む実社会は、もっと複雑で、もっと多様です。性についても実に多様です。障碍を持つ人もいます。その障碍もまた多様です。人種も、言葉も、信じる宗教も、価値観も、育ってきた背景も。いろんな人が、同じ生活空間・この地球に生きているのです。しかし、それらを否定し、異なるものを排斥しようとする動きもまた社会では見られます。

だからこそ、私は、皆さんこそが、これからの共生社会において重要な役割を担えるものと信じております。このコロナ禍の三年間、総合学科の七戸高校で学んだ「見える学力」と「見えない学力」を大切にし、ここで過ごしたことが、間違いではなかったといえる人生を歩んでほしいと願います。

卒業にあたり、皆さんにもう一つお願いがあります。それは、今後も本校で掲げた五つの力を追い求めてほしいということです。中でも、協働する力のルーブリック表に掲げた、「正しく人を頼る力・受援力」についてお願いをしておきます。

皆さんの中には、卒業を、煩わしい仕組みや制度から、逃れる日であると強く思っている生徒もいるかもしれません。しかし、皆さんは、自由の中で生きて行くことの難しさ、自由に生きることの不自由さをまもなく知ることになるでしょう。これは、誰もが必ず通る道です。そしてその時は、「ツライ」と声にする勇気をもってください。辛い時は、「ツライ」と、苦しい時は、「クルシイ」と言っていいのです。社会では、個人の努力で解決できないことがたくさんあります。人を頼ることは決して悪いことではありません。人を頼って何かをしてもらうのではなく、正しく人を頼って自分の力で何かを成し遂げるのです。

それが「正しく人を頼る力・受援力」です。

このことを忘れないでいてください。

ご来賓の皆様、地域の皆様。

私たちの生徒は、これから皆さんと共に生きていくことになります。成年年齢とはいえ、社会人としては全くの初心者です。私たちのこの大切な生徒が、この地で、または、他の地域で力強く生きていけるようになるまで、「柏の葉」に込めた校章の願いのごとく、どうか、いましばらくの間、見守っていただくことを切にお願いいたします。

保護者の皆様へ

多くの生徒がこの卒業で親元を離れることになります。「まさかこんなにも早く今日という日を迎えるとは」と驚かれていることと思います。子育てに限りませんが、あれが最後の日だったのかと、後になって振り返ることが時にあります。ランドセルを背負った後ろ姿。絵本を読んであげた日のこと。最後にお弁当をもたせた日のこと。

本日、お子様は、高校生活最後の日を迎えました。この卒業は、保護者の皆様の人生においても大きな節目の日であろうかと拝察いたします。改めて心からお祝いを申し上げます。

最後になりますが、卒業生の皆さん。今日からこの七戸高校は皆さんの母校となります。皆さんが、母校に誇りを持ち、いつまでもこの学び舎が、ここに立ち続けられるよう、私たち教職員は、七戸公営柏葉塾の職員の皆様、そして地域の皆様と手を携え、この地域になくてはならない学校づくりを進めて行くことをお約束いたします。

さあ、皆さん。お別れです。皆さんは、この七戸高校を選び、私たちと出会い、大切な青春時代の三年間を、私たちと共に過ごしてくれました。この素晴らしい一期一会に、全ての教職員を代表して感謝します。

皆さんの今後の人生に幸多からんことを願い式辞といたします。

本当にありがとうございました。

令和五年三月一日

青森県立七戸高等学校

校長　森田　勝博